

がんをはじめ、心臓、腎臓、肺疾患などの慢性疾患の患者さんが痩せてしまうという現象は古代ギリシャ時代から知られており、悪液質という概念も古代ローマ時代にはすでに用いられていました。

特に、がんが進行して大きく体重が減少し、体力がなくなる、そのような状態を「がん悪液質」と言います。がん悪液質は、がん細胞が体にはばす様々な作用によつて、食欲が抑えられ、筋肉や脂肪などが極端に減ってしまう病態であり、これ自体、病気の二つと言えます。

具体的には、体重減少（ダイエットをしている

などの説明がつかない）、筋力低下、易疲労感、食欲不振、吐き気、不安抑うつ気分などの症状を経験する病態を指します。

放っておくと、体力が落ち、抗がん剤投与や放射線療法など必要な治療

ができなくなったり、生活の質（QOL・Quality of Life）が低下したり

することがありますので、早めに治療することをお勧めします。

このように、悪液質は進行すると、いのちに関わるものですが、その

知って得

医療・介護

藤田医科大学七栗記念病院 教授 伊藤 彰博



⑩ がん悪液質について聞いたことがありますか？

標準治療は確立されています。

このため、栄養状態の改善が可能な早い段階、すなわち前悪液質（体重減少が5%以内、BMIが20以下では、2%以内）段階から、がん治

療の一部として対応することが大切です。一般的には、①栄養療法（管理栄養士の指導の下で、バランスの摂れた食事を摂ることが最も重要です。詳細は、本コラム6月号「プレイル予防で元気に暮らす」を御参照してください。

肉量の減少を予防することが有効と考えられます。このように、がん悪液質に対しては、早期からの対応、総合的なプランの構築を行うことにより、患者さんのQOLを向上させ、がんとの闘いに役立てましょう。

い栄養補助食品のおやつ時間での摂取やむくみが出る前の段階では、点滴も有効です。②運動（骨格筋量を増やす）が有効です。③運動（骨格筋量を増やす）が有効です。④その他、心理的サポート（不安や抑うつ気分に対する、精神的援助は重要な役割を果たします）など

に、白含を組み合わせ、実践することが有効であると考えられます。

このように、がん悪液質に対しては、早期からの対応、総合的なプランの構築を行うことにより、患者さんのQOLを向上させ、がんとの闘いに役立てましょう。